

Rational™ ClearQuest®

入門

バージョン: 2003.06.10 およびそれ以降

G126-5405-00

UNIX/WINDOWS 版

法的通知

Copyright ©1997-2003, Rational Software Corporation. All Rights Reserved.

バージョン番号: 2003.06.10 およびそれ以降

本マニュアル (「本著作物」) は、アメリカ合衆国その他の国々の著作権法及び種々の条約により保護されています。Rational Software Corporation の文書による事前の同意を得ることなく本著作物を複製し又は頒布することは、禁じられています。

本著作物はライセンスに基づいて提供されるもので、ライセンス規定に従う場合にのみ、使用または複製できます。ライセンスで明示的に許可されている場合を除き、本マニュアルまたはその複製を第三者に提供することは禁じられています。本著作物の権利または所有権を譲渡することはできません。ライセンス条項の全文については、ライセンス契約書をお読みください。

Rational Software Corporation、Rational、Rational Suite、Rational Suite ContentStudio、Rational Apex、Rational Process Workbench、Rational Rose、Rational Summit、Rational Unified process、Rational Visual Test、AnalystStudio、ClearCase、ClearCase Attache、ClearCase MultiSite、ClearDDTS、ClearGuide、ClearQuest、PerformanceStudio、PureCoverage、Purify、Quantify、Requisite、RequisitePro、RUP、SiteCheck、SiteLoad、SoDa、TestFactory、TestFoundation、TestMate、TestStudio は、Rational Software Corporation の米国およびその他の国における登録商標です。Rational のロゴ、Connexis、ObjecTime、Rational Developer Network、RDN、ScriptAssure、XDE は、Rational Software Corporation の米国およびその他の国における商標です。その他すべての名前は、識別の目的でのみ使用されているものであり、それぞれの会社の商標または登録商標です。

米国特許番号 5,193,180、5,335,344、5,535,329、5,574,898、5,649,200、5,675,802、5,754,760、5,835,701、6,049,666、6,126,329、6,167,534、6,206,584 の請求の範囲内の部分。このほかにも米国特許及び国際特許申請中。

米国政府の権利

このソフトウェアおよび文書は、「商業的コンピュータソフトウェア」、「商業的ソフトウェア」または「使用が制限されたコンピュータソフトウェア」として提供され、規約は該当する DFARS 252.227、DFARS 252.211、FAR 2.101、FAR 52.227 (またそれ以前に定められた条項) に規定されています。本ソフトウェア製品およびドキュメントの使用、複製、または開示は、DFARS 227.7202、FAR 52.227-19 の下位条項 (c)、または FAR 52.227-14 (またはその改訂された規定) に定められるように、該当する Rational Software Corporation ライセンス契約書の条項の制約を受けます。

免責事項

本書および関連ソフトウェアは、ライセンス契約に基づいて使用することができます。そのような使用許諾契約書に別段の明示的な規定がある場合を除き、また、それぞれの国の法律により禁止または制限されている場合を除き、Rational Software Corporation は、本メディア、ソフトウェア製品、およびその関連文書について、明示的にも暗黙的にも、商品性に関する保証、非権利侵害性に関する保証、特定目的への適合性に関する保証、取り扱い、使用、または取引行為に伴う保証、およびライセンシーによる静穏無事な製品使用に対する妨害がないことの保証について一切の責任を負いません。

第三者の通知、コード、使用許諾および確認

Portions Copyright © 1992-1999, Summit Software Company. All rights reserved.

Microsoft、Microsoft のロゴ、Active Accessibility、Active Client、Active Desktop、Active Directory、ActiveMovie、Active Platform、ActiveStore、ActiveSync、ActiveX、Ask Maxwell、Authenticode、AutoSum、BackOffice、BackOffice のロゴ、bCentral、BizTalk、Bookshelf、ClearType、CodeView、DataTips、Developer Studio、Direct3D、DirectAnimation、DirectDraw、DirectInput、DirectX、DirectXJ、DoubleSpace、DriveSpace、FrontPage、Funstone、Genuine Microsoft Products のロゴ、IntelliEye、IntelliEye のロゴ、IntelliMirror、IntelliSense、J/Direct、JScript、LineShare、Liquid Motion、Mapbase、MapManager、MapPoint、MapVision、Microsoft Agent のロゴ、Microsoft eMbedded Visual Tools のロゴ、Microsoft Internet Explorer のロゴ、Microsoft Office Compatible のロゴ、Microsoft Press、Microsoft Press のロゴ、Microsoft QuickBasic、MS-DOS、MSDN、NetMeeting、NetShow、Office のロゴ、Outlook、PhotoDraw、PivotChart、PivotTable、PowerPoint、QuickAssembler、QuickShelf、RelayOne、Rushmore、SharePoint、SourceSafe、TipWizard、V-Chat、VideoFlash、Visual Basic、Visual Basic のロゴ、Visual C++、Visual C#、Visual FoxPro、Visual InterDev、Visual J++、Visual SourceSafe、Visual Studio、Visual Studio のロゴ、Vizact、WebBot、WebPIP、Win32、Win32s、Win64、Windows、Windows CE のロゴ、Windows のロゴ、Windows NT、Windows Start のロゴ、XENIX は、Microsoft Corporation の米国およびその他の国における商標または登録商標です。

Sun、Sun Microsystems、Sun のロゴ、Ultra、AnswerBook 2、medialib、OpenBoot、Solaris、Java、Java 3D、ShowMe TV、SunForum、SunVTS、SunFDDI、StarOffice、および SunPCi は、Sun Microsystems の米国および他の国における商標または登録商標です。

Purify は、Sun Microsystems, Inc. の米国特許番号 5,404,499 の下にライセンス供与されています。

Globetrotter ソフトウェア (FLEXIm ライブラリおよびユーティリティ) の本来の用途は、ソフトウェアライセンス管理であり、他の製品またはアプリケーションにこれらのソフトウェアを組み込むことは、ライセンスに含まれません。

BasicScript は、Summit Software Company の登録商標です。

デザイン パターン: Erich Gamma、Richard Helm、Ralph Johnson および John Vlissides による再使用可能なオブジェクト志向のソフトウェアの要素。Copyright © 1995 by Addison-Wesley Publishing Company, Inc. All rights reserved.

Copyright © 1997 OpenLink Software, Inc. All rights reserved.

本ソフトウェアおよびドキュメントは部分的に、カリフォルニア大学理事会により使用許諾されている BSD Networking Software Release 2 に基づいています。当社はその開発におけるカリフォルニア大学バークレー校の Computer Systems Research Group および Electrical Engineering and Computer Sciences Department 並びに「その他の協力者」の役割を認めます。

本製品は、Apache (http://www.webdav.org/mod_dav/) における使用のために Greg Stein により開発されたソフトウェアを含んでいます。

追加の法的通知は、お客様の Rational ソフトウェア インストレーションに含まれています。

目次

まえがきxiii
本書について	xiii
ユーザーの役割と ClearQuest マニュアル セット	xiii
ClearQuest マニュアル ロードマップ	xv
ClearQuest とほかの Rational 製品との統合	xvi
オンライン マニュアルxvii
カスタマ サポートxvii
 ClearQuest と ClearQuest MultiSite の概要	 1
Rational ClearQuest	1
すぐに使用できる障害追跡システム	4
開発環境のサポート	4
ClearQuest MultiSite	4
ClearQuest スキーマ、スキーマ リポジトリ、データベース、接続の定義	5
スキーマ	5
スキーマ リポジトリ	5
データベース	6
接続	7
 変更管理プロセスの計画	 9
変更管理システムの理解	9
範囲の識別	10
変更管理プロセス モデルの構築	10
主要な役割の識別	12
ワークフロー図の設計	12
変更管理プロセスの導入と適用	13
 ClearQuest の管理とカスタマイズ	 15
スキーマの設計とカスタマイズ	15
ClearQuest Designer の起動	16
ClearQuest のスキーマの選択	17

スキーマのカスタマイズ	18
スキーマのチェックアウト	18
スキーマのチェックイン	18
スキーマ リポジトリの操作	19
スキーマ リポジトリの作成と接続	19
接続プロファイル	19
スキーマ リポジトリの移動	20
ClearQuest の新しいバージョンへのアップグレード	20
ClearQuest データのエクスポートとインポート	20
ClearQuest の電子メール管理	21
Web 上での ClearQuest の管理	21
UNIX 上の ClearQuest の管理	22

ClearQuest の使用法 23

ClearQuest Windows クライアントの使用法	23
ClearQuest UNIX クライアントの使用法	24
ClearQuest Web クライアントの使用法	25
ClearQuest クライアント インターフェイス	26
ワークスペース	26
クエリー ビルダー	27
レコード フォーム	27
Windows クライアントと UNIX クライアントでの変更依頼レコードの操作	27
変更依頼の登録	27
障害登録フォーム	28
変更依頼の割り当て	29
変更依頼の変更	29
変更依頼のオープンと解決	29
Windows クライアントと UNIX クライアントでの変更依頼レコードの追跡	30
共用クエリーと個人用クエリー	30
ワークスペースからのクエリーの実行	30
カスタム クエリーの作成	31
Windows クライアント上でのクエリー ウィザードの使用法	31
クエリーの変更	32

プロジェクト進捗情報の収集	32
ClearQuest のグラフの使用法	32
ClearQuest のグラフの作成	33
ClearQuest のグラフの保存	33
ClearQuest のグラフの実行	34
ClearQuest のグラフの変更	34
ClearQuest のレポート書式とレポートの使用法	34
レポート書式の作成	34
ClearQuest Windows と ClearQuest Web でのレポートの作成	35
ClearQuest UNIX でのテキスト形式のレポートの作成	35
ClearQuest のレポートの保存	36
ClearQuest のレポートの実行	36
ClearQuest Windows でのレポートとレポート書式の変更	36
ClearQuest のグラフとレポートのエクスポート	36
ClearQuest データの印刷	37
電子メールによる自動通知の受信	37

索引	39
-----------------	-----------

図目次

図 1	スキーマ リポジトリとスキーマ	6
図 2	変更管理プロセス モデル	11
図 3	ClearQuest クライアント インターフェイス	26
図 4	障害登録フォーム	28
図 5	ClearQuest の分散グラフ	33
図 6	ClearQuest の障害の概要レポート	35

表目次

表 1	ClearQuest のコンポーネント	2
表 2	共通の主要な役割	12
表 3	変更依頼のライフサイクル	13
表 4	事前定義のスキーマ	17
表 5	ClearQuest クライアントのグラフとレポートの機能	32

まえがき

本書について

本書では、Rational™ ClearQuest® の基本的な機能について説明します。さらに、計画から、障害と変更の追跡プロセスの設定、障害の処理と管理までの、組織での ClearQuest の導入方法の概要についても説明します。Windows 上での ClearQuest のインストール方法については、Rational サーバー製品のインストレーション ガイドと Rational デスクトップ製品のインストレーション ガイドを参照してください。UNIX 上での ClearQuest のインストール方法については、Rational ClearQuest のインストレーション ガイドを参照してください。

本書では、個々の手順や概念に関する詳細情報を提供するために、必要に応じて ClearQuest マニュアル内の特定の場所を参照します。

ユーザーの役割と ClearQuest マニュアル セット

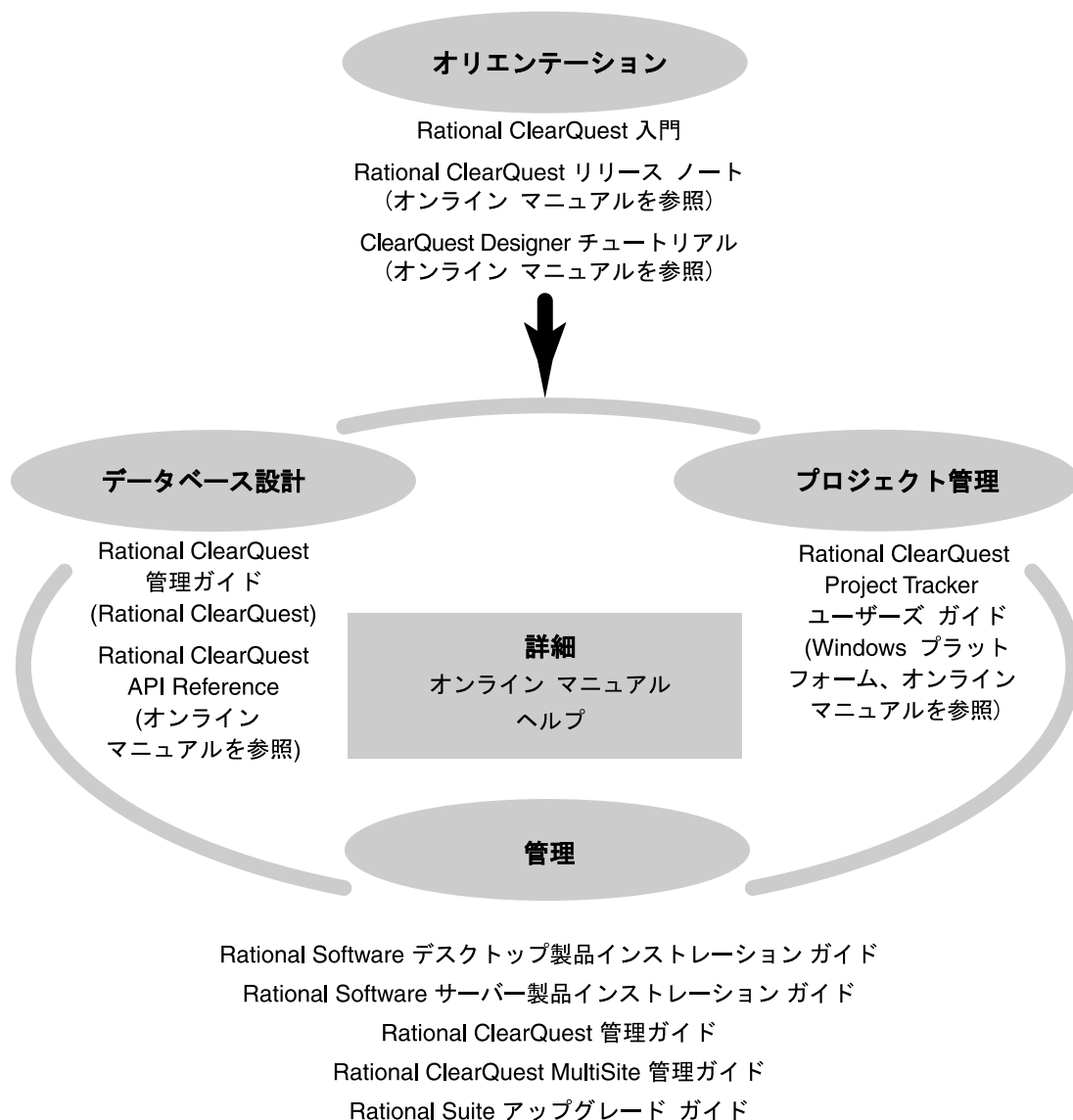
ClearQuest のマニュアルは、印刷されたマニュアルと、各作業に焦点を当てたオンライン情報で構成されており、システム管理者、スキーマ デザイナ、クライアント ユーザーを支援するために提供されています。本書には、次のユーザーの役割を対象とした情報が記載されています。

役割	一般的な作業	読む必要がある章
管理者	組織の変更管理プロセスの計画、ClearQuest スキーマの作成とカスタマイズ、データベース管理、変更管理システムのトラブルシューティングを行う。	第 1 章 ClearQuest と ClearQuest MultiSite の概要 第 2 章 変更管理プロセスの計画 第 3 章 ClearQuest の管理とカスタマイズ 第 4 章 ClearQuest の使用法
デザイナー	組織の変更管理プロセスに合わせてスキーマを設計しカスタマイズする。	第 1 章 ClearQuest と ClearQuest MultiSite の概要 第 2 章 変更管理プロセスの計画 第 3 章 ClearQuest の管理とカスタマイズ 第 4 章 ClearQuest の使用法

役割	一般的な作業	読む必要がある章
プロジェクト マネージャー	変更依頼をプロジェクト チームのメンバーに割り当てる。進捗状況を追跡するためにクエリー、グラフ、レコードを作成する。	第 1 章 ClearQuest と ClearQuest MultiSite の概要 第 4 章 ClearQuest の使用法
ユーザー	ClearQuest クライアント インターフェイスを使用して、変更依頼レコードの作成、更新、遷移、レポート作成を行う。	第 1 章 ClearQuest と ClearQuest MultiSite の概要 第 4 章 ClearQuest の使用法

次の「ClearQuest マニュアル ロードマップ」に、これらの役割をサポートするために、ClearQuest マニュアル セットがどのように構成されているかを示します。

ClearQuest マニュアル ロードマップ



ClearQuest とほかの Rational 製品との統合

統合	説明	説明が記載されている場所
ClearQuest - ベース ClearCase®	変更依頼を ClearCase エlement のバージョンに関連付けます。	『Rational ClearCase ソフトウェア開発ガイド』 『Rational ClearCase プロジェクト管理ガイド』 『Rational ClearQuest 管理ガイド』
ClearQuest - PurifyPlus	開発者が、PurifyPlus から ClearQuest を呼び出せるようにします。	PurifyPlus のヘルプ 『Rational ClearQuest 管理ガイド』
ClearQuest - RequisitePro	開発者が、RequisitePro から ClearQuest を呼び出して、要求を ClearQuest 変更依頼に関連付けることができるようにします。	『Rational Suite® 管理ガイド』 『Rational ClearQuest 管理ガイド』
ClearQuest - SoDA	ClearQuest から情報を収集して、その情報をさまざまなレポート形式で表示します。	『Using Rational SoDA for Word』 『Using Rational SoDA for Frame』 SoDA のヘルプ
ClearQuest - Test Manager	開発者が、TestManager から ClearQuest を呼び出せるようにします。	『Using Rational TestManager』 『Rational ClearQuest 管理ガイド』
ClearQuest - Robot	開発者が、Robot から ClearQuest を呼び出せるようにします。	『Rational Robot User's Guide』 Rational Robot のヘルプ
ClearQuest - UCM	UCM アクティビティを ClearQuest レコードにリンクします。	『Rational ClearCase ソフトウェア開発ガイド』 『Rational ClearCase プロジェクト管理ガイド』 『Rational ClearQuest 管理ガイド』

オンライン マニュアル

Rational ClearQuest には、次のオンライン マニュアルが含まれています。

ヘルプ システム: [ヘルプ] メニュー、[ヘルプ] ボタン、[F1] キーを使用します。

リファレンス ページ: Windows 上で、Rational ClearQuest MultiSite のリファレンス ページを表示するには、コマンドプロンプトで「multiutil man command-name」と入力します。

API リファレンス: [スタート]、[プログラム]、[Rational Software]、[Rational ClearQuest] をポイントし、[ClearQuest API リファレンス] をクリックします。

チュートリアル: [スタート]、[プログラム]、[Rational Software]、[Rational ClearQuest] をポイントし、[ClearQuest Designer チュートリアル] をクリックします。

PDF マニュアル: 次のディレクトリに移動します。

- UNIX の場合は、cquest-home-dir/doc/books
- Windows の場合は、cquest-home-dir¥doc¥books

カスタマ サポート

ソフトウェアやマニュアルの問題については、電話、ファックス、または電子メールで以下の Rational カスタマ サポートまでお問い合わせください。サポートの時間帯、対応言語、その他のサポート情報については、日本ラショナル ソフトウェア社の Web サイトのサポート情報 (<http://www.rational.co.jp/supports/>) を参照してください。

地域	電話	Fax	電子メール
アジア太平洋 (日本を含む)	+61-2-9419-0111	+61-2-9419-0123	support@apac.rational.com (英語のみ対応) support@japan.rational.com (日本語対応可)

ClearQuest と ClearQuest MultiSite の概要

1

このたびは、Rational ClearQuest をお買い上げいただき、まことにありがとうございます。
ClearQuest は、ダイナミックなソフトウェア開発環境での使用を想定したカスタマイズ可能な
障害/変更追跡システムです。ClearQuest を使用すれば、拡張、障害、ドキュメントの変更を
含むソフトウェア開発に関するすべての変更アクティビティを管理できます。

ソフトウェアの変更依頼の管理プロセスで、ClearQuest を使用してチーム全体を統合すること
で、開発サイクルを短縮できます。

- 開発エンジニアは、各自の担当コード部分に関するアクション アイテムを特定し、優先順位
を付けることができます。
- テクニカル ライターは、ドキュメントの改訂が必要な開発変更依頼や、ドキュメント自体に
関する変更依頼を検索できます。
- テスト エンジニアは、検出した障害を記録し、変更依頼の状態と解決を追跡してソフト
ウェアの品質を確認できます。
- プロジェクト リーダーとマネージャーは、開発リソースの配分、ワークフローの合理化、
リリース日程の正確な決定に役に立つ情報を一目で入手できます。
- システム管理者は、既存のツールに ClearQuest を統合することで、組織のプロセスと
ワークフローに合わせて ClearQuest をカスタマイズできます。

Rational ClearQuest

ClearQuest は、クライアント/サーバー環境で統合される複数のコンポーネントで構成されて
います。ClearQuest ユーザーは、Windows または UNIX のデスクトップクライアントを使用
することでデータベースにアクセスするか、Web ブラウザを使用して Microsoft Internet
Information Server (以下 IIS) を実行しているサーバー上の Web クライアントにアクセスす
ることによってデータベースにアクセスします。ClearQuest データベースは、Windows サーバーまたは
UNIX サーバー上に配置できますが、ClearQuest 管理ツールは、Windows 上でのみ実行でき
ます。ClearQuest のクライアント コンポーネントとサーバー コンポーネントの詳細については、
表 1 を参照してください。

表 1 ClearQuest のコンポーネント

コンポーネント	使用者	タスク	詳細情報
クライアント ユーザー インターフェイス			
ClearQuest Windows クライアント	全員	変更依頼を登録、変更、追跡し、クエリー、グラフ、レポートを作成、更新することで、プロジェクトの進捗状況を分析する。	23 ページの「ClearQuest Windows クライアントの使用方法」または ClearQuest のヘルプを参照。
ClearQuest UNIX クライアント	全員	変更依頼を登録、変更、追跡し、クエリー、グラフ、レポートを作成、更新することで、プロジェクトの進捗状況を分析する。	24 ページの「ClearQuest UNIX クライアントの使用方法」または ClearQuest のヘルプを参照。
ClearQuest Web クライアント	全員	Netscape Navigator、Microsoft Internet Explorer、Mozilla を使用することで、複数のプラットフォームで ClearQuest にアクセスして、変更依頼を登録、変更、追跡し、クエリーとレポートを作成、更新することで、プロジェクト分析をサポートする。	25 ページの「ClearQuest Web クライアントの使用方法」または ClearQuest のヘルプを参照。
管理ツール			
ClearQuest Designer	ClearQuest 管理者とスキーマ デザイナ	ClearQuest のカスタマイズ、ClearQuest のスキーマとデータベースの管理、ユーザーとユーザー グループの管理を行う。	15 ページの「スキーマの設計とカスタマイズ」または『Rational ClearQuest 管理ガイド』のスキーマのカスタマイズに関する情報を参照。
ClearQuest メンテナンス ツール	全員	インストール時や新しいバージョンの ClearQuest にアップグレードする際に、スキーマ リポジトリを設定し、接続する。	15 ページの「スキーマの設計とカスタマイズ」または『Rational ClearQuest 管理ガイド』の ClearQuest のスキーマ操作に関する情報を参照。

表 1 ClearQuest のコンポーネント (続き)

コンポーネント	使用者	タスク	詳細情報
Rational E-Mail Reader	ClearQuest 管理者	電子メールによって ClearQuest ユーザーがレコードを登録したり変更したりできるようにする。	21 ページの「ClearQuest の電子メール管理」または『Rational ClearQuest 管理ガイド』の ClearQuest の電子メール管理に関する情報を参照。
ClearQuest ユーザー管理ツール	ClearQuest 管理者	ユーザーとユーザーグループの作成、ユーザー ID とパスワードの設定、ユーザーグループへのユーザーの割り当て、スキーマ間でのユーザーとユーザーグループのインポートとエクスポート、データベースへのユーザーとユーザーグループの登録、ユーザーの検索を行う。	『Rational ClearQuest 管理ガイド』のユーザーの管理に関する情報を参照。
ClearQuest インポート ツール	ClearQuest 管理者	レコード、履歴、添付ファイルを含むデータを、ほかの変更依頼システムからインポートするか、ClearQuest データベース間でインポートする。	20 ページの「ClearQuest データのエクスポートとインポート」または『Rational ClearQuest 管理ガイド』のデータのインポートに関する情報を参照。
ClearQuest エクスポート ツール	ClearQuest 管理者	ClearQuest データを 1 つのユーザー データベースから別のユーザー データベースにエクスポートする。	20 ページの「ClearQuest データのエクスポートとインポート」または『Rational ClearQuest 管理ガイド』のデータのエクスポートに関する情報を参照。
Windows 上の ClearQuest MultiSite 管理ツール UNIX 上の multiutil	ClearQuest MultiSite 管理者	スキーマ リポジトリとユーザー データベースのレプリカを作成し管理する。	『Rational ClearQuest MultiSite 管理ガイド』を参照。

すぐに使用できる障害追跡システム

ClearQuest は、変更と障害の追跡をすぐに使用できる、Rational の各種ソフトウェア製品との統合を実現する事前定義のスキーマを備えています。ClearQuest スキーマは、そのまま使用することも、組織のワークフローに合わせてカスタマイズすることもできます。ClearQuest の事前定義のスキーマのリストは、17 ページの「ClearQuest のスキーマの選択」を参照してください。

開発環境のサポート

ClearQuest では、次のソフトウェア開発環境がサポートされています。

- 特定の開発プロジェクト内または会社全体で、継続的に障害追跡プロセスを管理できます。
- Rational ClearCase、Microsoft Visual SourceSafe との統合により、変更依頼を刻々と進展するソフトウェアの変更と直接に関連付けます。
- Rational TeamTest、VisualTest、Purify[®]、PureCoverage、Quantify[®] との統合により、変更依頼をこれらのテスト ツールから ClearQuest に直接登録できるようにします。
- Microsoft VisualStudio 6、VS.NET との統合をサポートします。
- Seagate's Crystal Reports 8.5 Professional Edition との統合をサポートするため、ClearQuest データからカスタム レポートを作成できます。
- 先進的な COM インターフェイスによって Microsoft の Excel、Word、Project など、その他の Windows 標準ツールとの統合を実現します。
- ClearQuest の [ヘルプ] メニューの [Rational 拡張ヘルプ] をクリックすることで、Rational Unified Process[®] にアクセスできます。
- Sybase SQL Anywhere (ClearQuest に付属しています)、Microsoft Access、Microsoft SQL Server、Oracle リレーショナル データベース、IBM DB2 をサポートします。
- Microsoft IIS Web サーバーをサポートします。

ClearQuest MultiSite

Rational ClearQuest MultiSite は、Rational ClearQuest への追加機能です。MultiSite を使用すると、異なる場所で作業する開発者が同じ障害追跡データベース セット (スキーマ リポジトリと関連ユーザー データベース) を使用できます。各サイトに専用のレプリカ セット (データベース セットのコピー) が置かれます。1 つのレプリカに加えられた変更は、いつでも更新パケットに格納してほかのレプリカに送信できます。更新プロセスは自動的に行うことも、手作業でコマンドを実行して行うこともできます。

MultiSite を使用することにより、組織は独立しているが相互に関連のある開発作業結果を、複数の都市、国、または大陸に分散することができます。たとえば、米国のある会社が、インド、アルゼンチン、日本、オーストラリアに開発とテストを行うサイトを所有しているとします。すべてのエンジニアが米国の障害追跡データベースにアクセスするのは非現実的です。そのため、この会社では MultiSite を使用して、開発を分散します。

地理的に 1 つの場所で MultiSite を使用することもできます。具体的には、独立した複数のグループによる同じ開発データの使用、またはバックアップ メカニズムが挙げられます。たとえば、バックアップの信頼性を高める必要がある場合は、障害追跡データベース セットのレプリカをローカルに作成できます。ClearQuest MultiSite の詳細については、『Rational ClearQuest MultiSite 管理ガイド』を参照してください。

ClearQuest スキーマ、スキーマ リポジトリ、データベース、接続の定義

ClearQuest を使用する場合は、ClearQuest データベース、スキーマ、スキーマ リポジトリ、データベース セット、接続などのさまざまなオブジェクトを操作します。ここでは、これらのコンポーネントの概要と、これらのコンポーネントが変更管理システムの一部としてどのように連携するかについて説明します。

スキーマ

ClearQuest スキーマは、変更依頼の 1 つのタイプのプロセス モデルを完全に説明するものです。このスキーマには、モデルの状態とアクション、個々の変更依頼に関する保存可能なデータの構造、ビジネス ルールを実装するために使用できるフック コードまたはスクリプト、変更依頼に関する情報の表示と入力に使用するフォームとレポートの説明が含まれます。

このスキーマは、ClearQuest ユーザー データベースの原型または青写真です。ユーザー データを格納するデータベースを作成する場合、スキーマ内に定義された青写真に従ってデータベースを作成します。ただし、スキーマはデータベース自体ではありません。スキーマに変更依頼に関するユーザー データを格納することはありません。また、ユーザーがユーザー データベース内のデータを追加または変更したときにスキーマが変更されることはありません。

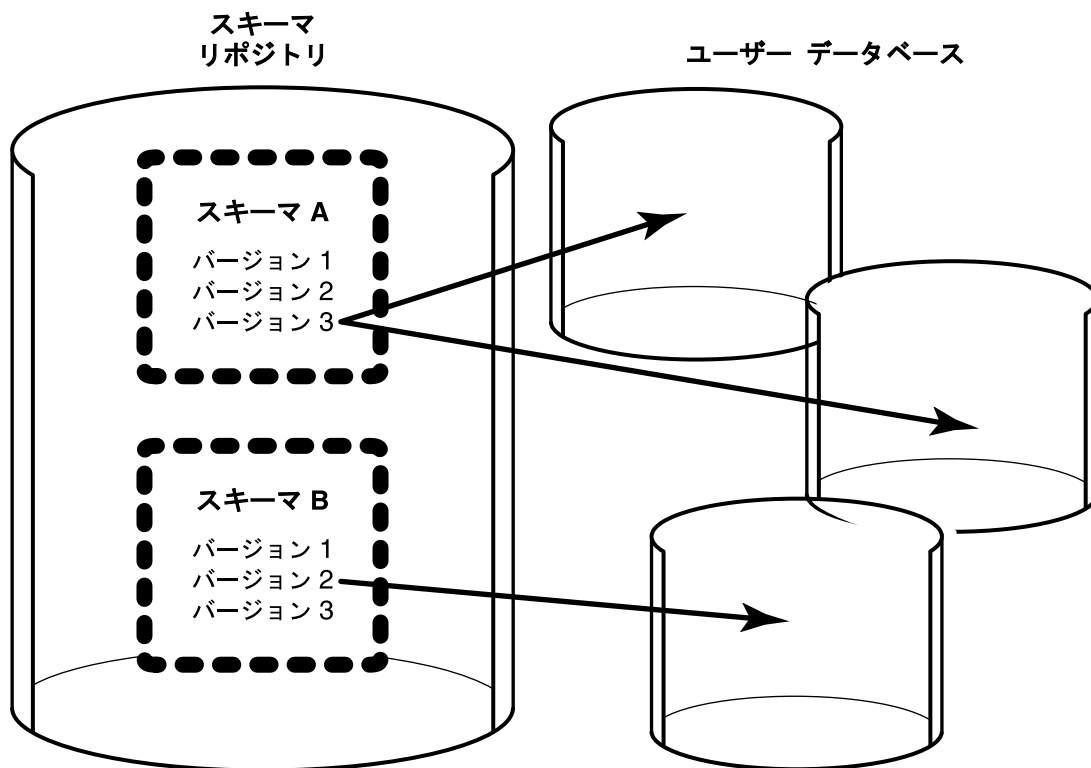
スキーマ リポジトリ

ClearQuest では、スキーマは、スキーマ リポジトリという特別なタイプのデータベースに格納されます。スキーマ リポジトリは、マスター リポジトリまたはマスター データベースと呼ばれることもあります。

スキーマ リポジトリには、複数のスキーマを格納できます。たとえば、障害に関する変更依頼用の 1 つのスキーマと、機能拡張に関する変更依頼用の別のスキーマを格納できます。図 1 では、スキーマ リポジトリにスキーマ A とスキーマ B の両方が格納されています。

スキーマ リポジトリには、同じスキーマの複数のバージョンを格納することもできます。たとえば、アクションを変更したり新規レポートを追加することでスキーマの変更を行うたびに、新しいバージョンが作成されます。図 1 では、スキーマ リポジトリに、スキーマ A の 3 つのバージョンと、スキーマ B の 2 つのバージョンが格納されています。

図 1 スキーマ リポジトリとスキーマ



データベース

ClearQuest のデータベースは、1 つのプロセス モデルのユーザー データのコレクションです。

ユーザーは、各データベースを特定のスキーマのバージョンに関連付けます。たとえば、図 1 では、各ユーザー データベースに、スキーマ リポジトリに格納されたスキーマの 1 つのバージョンが関連付けられています。スキーマは、データベース内のデータの格納方法と変更方法を定義します (つまり、データベースはスキーマのインスタンスです)。ユーザーは、変更依頼に関する情報を追加または変更するときに、データベース内のデータを変更しますが、これらの変更はスキーマには影響しません。

各変更依頼のレコードはデータベースに含まれます。変更依頼のライフサイクルの進行に合わせて、このレコードに格納されるデータも変化します。

複数のデータベースを作成して 1 つのスキーマに関連付けることができます。たとえば、3 つのプロジェクトで同じ障害修正プロセス モデルを使用する場合は、プロジェクトごとに 1 つのデータベースを作成し、3 つのデータベースをすべて同じスキーマに関連付けることができます。図 1 では、2 つのユーザー データベースにスキーマ A のバージョン 3 が関連付けられています。

接続

1 つのスキーマ リポジトリとすべての関連ユーザー データベースのことを、接続またはデータベース セットと呼びます (図 1 を参照してください)。通常、1 つの接続には、1 つのプロジェクトのすべてのスキーマとデータベースが含まれます。ただし、1 つの接続で複数のプロジェクトをサポートすることも、1 つのプロジェクトで複数の接続を使用することもできます。

スキーマとデータベースの使用方法の詳細については、『Rational ClearQuest 管理ガイド』を参照してください。

この章では、変更管理システムの概要と、変更管理プロセスを計画する場合に、管理者が従う必要がある手順の概要について説明します。詳細については、『Rational ClearQuest 管理ガイド』を参照してください。

変更管理プロセスのアウトラインを定義した後は、事前定義された Rational ClearQuest スキーマのいずれかをカスタマイズすることも、プロセスの実装に最適な新規スキーマを作成することもできます。詳細については、「第 3 章 ClearQuest の管理とカスタマイズ」を参照してください。

変更管理システムの理解

組織で変更管理システムを使用する場合は、一貫性のある変更管理プロセス モデルを実装して管理することができます。

変更依頼のタイプごとに、次の操作を行うことができます。

- 状態、アクション、ルールを含むプロセス モデルを定義します。
- アクションをいつどのように実行できるかを制御するカスタマイズしたルールをプログラミングします。
- フォームを作成し、システムの関係者が、そのフォームを使用して、変更依頼へのアクセス、相互連絡、適切なアクションを行えるようにします。
- レポートとクエリーを作成し、マネージャーが、それらを使用して、個々の変更依頼、変更依頼のクラス、プロジェクトに関連するすべての変更依頼を参照できるようにします。

変更管理システムを使用すると、変更依頼のライフサイクルを通して、組織の正しいポリシーと手順に従って個々の変更依頼を処理し、同時に開発チームの作業を簡素化することができます。

また、変更管理システムには、作業の割り当てと仕事量の管理、プロジェクトの進捗追跡、チームワークの向上、プロセスと製品の継続的な向上に使用する管理ツールも用意されています。

範囲の識別

変更管理プロセスを計画する場合は、プロセスを完全に正確で効果的に実行できるように、最初にプロセスの範囲を決定します。プロセスは、1つのプロジェクトチーム、1つの部門、複数の部門のどれに適用することもできますが、変更依頼の影響を直接受けるすべてのグループがプロセスに含まれている必要があります。

変更管理プロセス モデルの構築

変更管理プロセス モデル (状態遷移モデルとも呼ばれます) は、1つの変更依頼のライフサイクル内で発生する可能性があるステップを体系的に表現したものです。このモデルは、変更依頼が通過する状態、状態が変化するときに行われるアクション、アクションをいつどのように実行できるかを定義するルールを使用して、ライフサイクルを定義します。

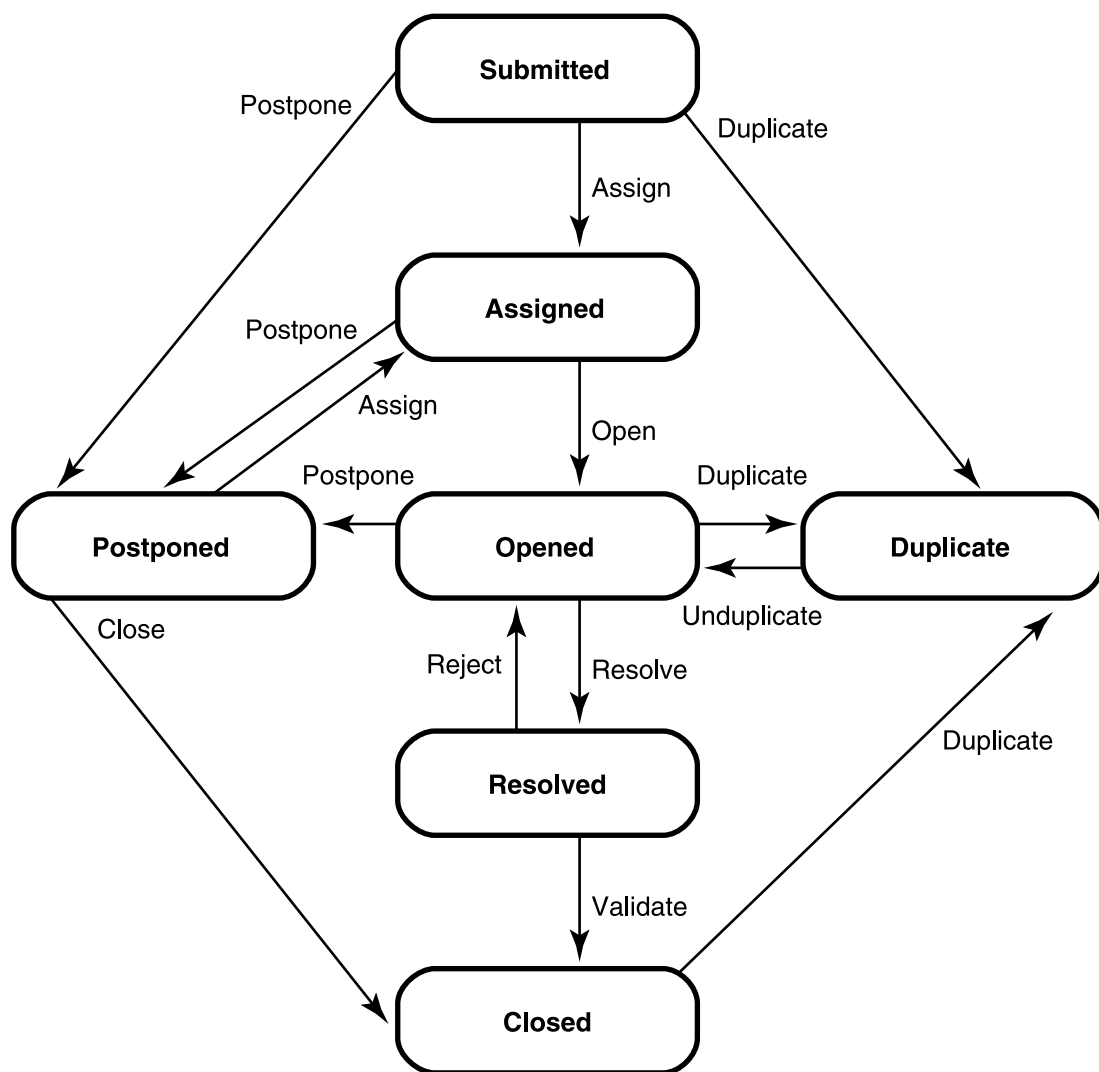
変更依頼の状態は、現在のステータスです。一般的な状態には、Submitted、Assigned、Opened、Postponed、Duplicated、Resolved があります。

アクションは、変更依頼を1つの状態から別の状態に移す (状態遷移) アクティビティです。一般的なアクションには、Assign、Reject、Open、Postpone、Duplicate、Validate、Resolve、Close があります。

ルールは、アクションをいつどのように実行できるかを定義します。たとえば、変更依頼を Validate 状態から Closed 状態に移す Validate アクションを使用する権限は、品質保証担当エンジニアだけに制限される場合があります。

図 2 に示すように、プロセス モデルは、図で示すことができます。この図では、状態は楕円で表され、アクションは矢印で表されています。

図 2 変更管理プロセス モデル



主要な役割の識別

構築する変更管理プロセスは、組織内の多くのグループと個人に影響します。変更管理システムを実装する前に、プロセス内で主要な役割を果たす関係者を識別し、それらの関係者の承認を得る必要があります。主要な役割は、変更管理プロセスごとに異なりますが、次の表 2 に多くの組織に共通する役割を示します。

表 2 共通の主要な役割

役割	変更管理の責任
顧客	組織が提供する製品またはサービスを使用します。一般に、顧客は、ほとんどの変更依頼の提出元になります。製品またはサービスが成功するかどうかは、これらの依頼の管理方法によって決まります。
変更管理委員会 (CCB)	受け取った変更依頼を確認し、各依頼の処理方法を決定します。
マネージャー	変更依頼に関係する作業の割り当てとスケジュール作成に役立つ情報を必要とします。
ソリューション提供者 (開発者)	CCB から変更依頼を受け取ります。変更依頼の適切な解決方法を開発します。
テスト担当者	変更依頼の解決方法を評価します。テスト担当者は、開発者が実装した解決方法が、変更依頼に対して十分な回答を提供することを確認します。
テクニカルライター / トレーニング コース開発者	変更依頼の解決方法によって影響を受けるドキュメントに関する情報を必要とします。

ワークフロー図の設計

変更管理システム内の主要な役割を定義した後は、変更依頼のライフサイクル全体で、各役割が変更依頼をどのように処理するかを示すワークフロー図を作成する必要があります。ワークフロー図では、変更管理システム内の役割、タスク、成果物の間の関係を視覚的に表現します。

表 3 に、製品開発組織の変更依頼のライフサイクルの例を文字で示します。同じような表を作成すると、自社のワークフロー図の設計に役立つ場合があります。

表 3 変更依頼のライフサイクル

チーム メンバー	変更依頼のライフサイクルでの役割
ユーザー	変更依頼の登録
変更管理マネージャー	変更依頼の確認と受け入れ
プロジェクト マネージャー	作業の割り当てとスケジュール作成
エンジニア	変更依頼を解決するための作業の実施
テスト担当者	テスト ビルドでの解決方法の確認
システム統合者	リリース ビルドでの変更の確認

当然ながら、変更依頼のライフサイクルは、表 3 に示したものよりも複雑になる場合があります。自社システム用に定義した主要な役割に応じて、より多くの（または少ない）関係者が存在する場合や、変更依頼の拒否、改訂、再割り当て、延期、複製、その他の変更、経路変更などが行われる場合があります。

変更管理プロセスの導入と適用

変更依頼プロセスを正常に導入して維持するには、変更管理プロセス モデルで定義したすべてのルールとポリシーが適用されていることを確認する必要があります。

変更管理処理に与える影響を最小限に抑えるため、システムを頻繁に変更しないようにする必要があります。既存の変更管理プロセスを変更する必要がある場合は、次のことを実行する必要があります。

- 変更の詳細を記述したプロジェクト計画を作成します。
- 関係するすべてのチームの承認を得ます。
- 実際に使用する前に、システムを十分にテストします。

ClearQuest の管理と カスタマイズ

3

この章は、Rational ClearQuest の管理者とスキーマ デザイナ、さらに ClearQuest の管理とカスタマイズを担当するすべてのユーザーを対象としています。この章では、Windows 上でどのような管理とカスタマイズのタスクを行うために使用するツールについて簡単に説明します。

- ClearQuest スキーマの設計とカスタマイズ
- スキーマ リポジトリの操作
- ClearQuest データのエクスポート
- ClearQuest データのインポート
- 電子メールによる通知の送信

この章では、UNIX と Web を使用して ClearQuest を管理する方法についても説明します。

この章を読む前に、5 ページの「ClearQuest スキーマ、スキーマ リポジトリ、データベース、接続の定義」で説明されているスキーマ、スキーマ リポジトリ、データベース、接続の概念について十分理解しておく必要があります。

ユーザーが ClearQuest を起動して実行する方法などの、ClearQuest の管理とカスタマイズの詳細については、『Rational ClearQuest 管理ガイド』を参照してください。ClearQuest チュートリアルにアクセスするには、[スタート] メニューをクリックし、[プログラム] をポイントします。次に、[Rational Software]、[Rational ClearQuest] をポイントし、[ClearQuest Designer チュートリアル] をクリックします。

スキーマの設計とカスタマイズ

ClearQuest Designer は、ClearQuest に含まれるクライアント/サーバー ツールです。

ClearQuest Designer を使用すると、多くの管理とカスタマイズのタスクを行うことができます。ClearQuest 管理者またはスキーマ デザイナは、ClearQuest Designer を使用して、スキーマ リポジトリ内のスキーマの参照、設計、変更を行うことができます。スキーマの作成と変更には、次のような処理が含まれます。

- データのレイアウトの定義
- 各変更依頼タイプのプロセス モデルの構築

- プロセス モデル用のプログラミングの追加
- フォーム、グラフ、レポートの作成

ClearQuest Designer を使用して、次の処理も行うことができます。

- 変更済みのスキーマをチェックイン前に検証するためのテスト データベースの作成
- 新規ユーザー データベースの作成
- 最新バージョンのスキーマを使用したユーザー データベースのアップグレード
- ClearQuest ユーザー管理ツールを使用したユーザー アカウントとユーザー権限の作成と変更

開発チームのほかのメンバーは、通常、スキーマを操作する権限を持っていません。ただし、それらのメンバーにクエリーやレポートの変更などの特定の変更を行う権限を割り当てることができます。

メモ: ClearQuest ユーザー管理ツールには、Windows の [スタート] メニューをクリックし、[プログラム]、[Rational Software]、[Rational ClearQuest] をポイントし、[ClearQuest ユーザー管理] をクリックしてアクセスすることもできます。

ClearQuest Designer の起動

ClearQuest Designer を起動するには

- 1 [スタート] メニューをクリックし、[プログラム] をポイントします。次に、[Rational Software]、[Rational ClearQuest] をポイントし、[Rational ClearQuest Designer] をクリックします。

ClearQuest Designer では、初めてログインするときにも使用できるデフォルトのユーザー名 (admin) が用意されています。パスワードを入力する必要はありません。admin のユーザーアカウントには、ClearQuest の管理者機能のすべてを実行できるアクセス権限が設定されています。admin アカウントを変更するには、[ツール] メニューの [ユーザー管理] をクリックし、admin ユーザーを選択して、[編集] をクリックします。

ユーザー アクセス権限の詳細については、『Rational ClearQuest 管理ガイド』のユーザー管理に関する情報を参照してください。

- 2 スキーマを変更する場合は、[スキーマを開く] ダイアログ ボックスで、スキーマをチェックアウトし、[完了] をクリックします。スキーマを変更しない場合は、[キャンセル] をクリックして続行します。

ClearQuest のスキーマの選択

表 4 に、Rational ClearQuest で事前に定義されているスキーマを一覧表示します。ClearQuest のスキーマは、特定の機能を提供するさまざまなパッケージで構成されています。それぞれのパッケージは、既存の ClearQuest のスキーマに追加することも、個別にカスタマイズしたスキーマに追加することもできます。ClearQuest のスキーマとパッケージの詳細については、『Rational ClearQuest 管理ガイド』を参照してください。

表 4 事前定義のスキーマ

スキーマ	説明
AnalystStudio	Rational Suite Analyst Studio と互換性があります。Rational RequisitePro と連携するようカスタマイズされています。
Blank	システム フィールドのみで構成されています。スキーマを新規作成する際に使用します。
Common	すべての ClearQuest スキーマに共通のメタデータが含まれています。
DefectTracking	ソフトウェアの開発環境において、ClearQuest を利用して障害の追跡を行う際に必要なフィールドが含まれます。
DevelopmentStudio	Rational Suite DevelopmentStudio と互換性があります。Rational の Purify、Quantify、PureCoverage に使用可能なフィールドとルールが含まれています。
Enterprise	Rational Suite EnterpriseStudio と共に使用します。すべての Rational 製品に使用可能なフィールドとフックが含まれています。
TestStudio	Rational Suite TestStudio と互換性があります。Rational の TeamTest、RequisitePro、Purify、Quantify、PureCoverage に使用可能なフィールドとルールが含まれています。
UnifiedChangeManagement	Rational ClearCase との統合によって、UCM プロセスをサポートします。

スキーマのカスタマイズ

ClearQuest を使用する場合、レコード操作のプロセスと、レコードフォームとフィールドの外観は、ClearQuest スキーマによって定義されます。ClearQuest 管理者またはデザイナーは、組織で計画されている変更管理プロセスを最も効果的に実装する ClearQuest スキーマを作成できます。詳細については、「第 2 章 変更管理プロセスの計画」を参照してください。

ClearQuest に付属しているスキーマのいずれかをそのまま使用することも、新規スキーマを作成することもできます。どちらの場合も、ClearQuest Designer を使用して、次のスキーマの変更タスクを実行します。

- 変更依頼のライフサイクルへの状態の追加
- 状態間の遷移へのアクションの追加
- レコード フォームへのフィールドの追加
- フィールドの動作の定義 (読み取り専用フィールド、必須フィールド、オプション フィールドなど)
- 変更管理システムのルールの適用を支援する Visual Basic または Perl によるフィールドフックまたはアクション フックの作成。詳細については、『Rational ClearQuest API Reference』を参照してください。

スキーマのチェックアウト

スキーマをカスタマイズするには、スキーマ リポジトリからスキーマをチェックアウトする必要があります。スキーマをチェックアウトしなかった場合は、ClearQuest Designer を起動したときに、[ファイル] メニューの [スキーマを開く] をクリックします。スキーマのカスタマイズをテストするためのテスト データベースの設定など、スキーマの操作手順については、『Rational ClearQuest 管理ガイド』を参照してください。

スキーマのチェックイン

スキーマの操作中は、[ファイル] メニューの [作業内容のテスト] をクリックすることで、いつでも作業内容をテストできます。この操作により、最新の変更内容でテスト データベースがアップグレードされます。本稼働のデータベースに影響を与えずに ClearQuest のクライアントで変更をテストする簡単な方法です。

スキーマの変更が正しく機能することを確認できたら、[ファイル] メニューの [チェックイン] をクリックして、スキーマをスキーマ リポジトリにチェックインします。スキーマをチェックインすると、そのスキーマを使用してユーザー データベースをアップグレードできます。[データベース] メニューの [データベースのアップグレード] をクリックします。アップグレードの前にスキーマ リポジトリとデータベースのバックアップを実施するよう要求するメッセージが表示されます。

ClearQuest のスキーマの操作方法の詳細については、『Rational ClearQuest 管理ガイド』を参照してください。

スキーマの変更の詳細については、ClearQuest Designer のヘルプに説明されています。

スキーマ リポジトリの操作

スキーマ リポジトリを作成またはカスタマイズした後は、ClearQuest メンテナンス ツールを使用して、次のタスクを実行できます。

- スキーマ リポジトリと接続の作成と管理
- サンプル データベースの作成
- スキーマ リポジトリの移動
- スキーマ リポジトリとユーザー データベースの ClearQuest の新規バージョンへのアップグレード

スキーマ リポジトリの作成と接続

ClearQuest メンテナンス ツールを使用して、新規スキーマ リポジトリを作成し、スキーマ リポジトリと関連ユーザー データベースへの接続を設定します。初めに、スキーマ リポジトリとユーザー データベース用に使用する製造元データベースを作成する必要があります。

既存のスキーマ リポジトリを移動または変更した後に、メンテナンス ツールを使用して、そのスキーマ リポジトリの接続情報を変更することもできます。

スキーマ リポジトリの作成と接続の詳細については、ClearQuest メンテナンス ツールの [ヘルプ] をクリックするか、『Rational ClearQuest 管理ガイド』を参照してください。

接続プロファイル

ClearQuest 管理者は、後で使用するために、接続プロファイルをエクスポートすることで、データベースの接続設定を保存できます。管理者がスキーマの接続情報を変更した場合または新規スキーマを作成した場合、ユーザーは、接続プロファイルをインポートすることができるので、接続情報を入力または変更する必要はありません。ClearQuest 管理者と ClearQuest クライアント ユーザーのどちらも、後で使用するために、接続プロファイルのインポートとエクスポートを行うことができます。

接続プロファイルの詳細については、ClearQuest メンテナンス ツールの [ヘルプ] をクリックしてください。

スキーマ リポジトリの移動

ClearQuest メンテナンス ツールを使用して、スキーマ リポジトリを別の場所に移動したり、別の製造元データベースを使用するように変更したりすることができます。製造元のデータベース ツールを使用してスキーマ リポジトリを移動すると、スキーマ リポジトリに設定した接続が失われます。この場合は、スキーマ リポジトリの接続情報を編集する必要があります。

スキーマ リポジトリの移動と接続情報の編集の詳細については、ClearQuest メンテナンス ツールのヘルプまたは『Rational ClearQuest 管理ガイド』を参照してください。

ClearQuest の新しいバージョンへのアップグレード

ClearQuest の新しいバージョンをインストールした場合は、この新しいバージョンを使用するようにすべてのユーザー データベースとスキーマ リポジトリをアップグレードできます (これは、それらのデータベースやリポジトリに接続されているかどうかにかかわらず実行できます)。

スキーマ リポジトリとユーザー データベースを ClearQuest の新しいバージョンにアップグレードする方法の詳細については、Windows の場合は『Rational Suite アップグレード ガイド』、UNIX の場合は Rational ClearQuest のインストレーション ガイドを参照してください。

スキーマ リポジトリの操作の詳細については、ClearQuest メンテナンス ツールのヘルプを参照してください。

ClearQuest データのエクスポートとインポート

ClearQuest エクスポート ツールと ClearQuest インポート ツールは、ClearQuest の管理者とユーザーが、ClearQuest データベース間または外部ファイルとの間でのデータのエクスポートとインポートに使用できるユーティリティです。

ClearQuest エクスポート ツールを開くには、[スタート] メニューをクリックし、[プログラム] をポイントします。次に、[Rational Software]、[Rational ClearQuest] をポイントし、[ClearQuest エクスポート ツール] をクリックします。

ClearQuest インポート ツールを開くには、[スタート] メニューをクリックし、[プログラム] をポイントします。次に、[Rational Software]、[Rational ClearQuest] をポイントし、[ClearQuest インポート ツール] をクリックします。

ClearQuest データのエクスポートとインポートの詳細については、ClearQuest エクスポート ツールと ClearQuest インポート ツールのヘルプまたは『Rational ClearQuest 管理ガイド』を参照してください。

ClearQuest の電子メール管理

Rational ClearQuest では、次のようないくつかの電子メール機能がサポートされています。

- **電子メールによる自動通知**: 変更依頼の割り当てなどの特定のイベントが発生した場合に、ユーザーまたはユーザー グループに電子メールによる通知を送信します。
- **電子メールによる障害の登録と変更**: ユーザーは、ClearQuest クライアントを使用せずに、電子メールを使用してレコードを登録または変更できます。
- **往復電子メール**: 電子メールによる通知と電子メールによる登録を組み合わせ、レコードを更新できます。たとえば、ユーザーは、レコードが登録されたことを伝える電子メールによる通知を受け取った場合に、データベース内のレコードにメモを追加する電子メールメッセージを使用して応答できます。
- **電子メール通知アクション フック**: アクション通知フックを使用して、ユーザーが特定のアクションを完了したときに電子メール メッセージを送信するように、ClearQuest を設定できます。

ClearQuest には、Rational E-Mail Reader サービス、電子メール ルール、電子メール オプションが用意されています。管理者とユーザーは、これらの機能を利用するためには、これらを設定する必要があります。ClearQuest の電子メール機能の設定方法と Rational E-Mail Reader サービスの使用法の詳細については、『Rational ClearQuest 管理ガイド』を参照してください。

Web 上での ClearQuest の管理

ClearQuest を Web サーバー上で設定し、ClearQuest の Windows クライアントと UNIX クライアントで利用できる機能の多くを、ユーザーが、インターネット ブラウザを使用して実行できるようにすることができます。ClearQuest Web は、Active Server Pages (ASP) をサポートしており、Microsoft Internet Information Server (IIS) を実行している Web サーバー上でホストされる必要があります。

ClearQuest Web クライアントの詳細については、『Rational ClearQuest 管理ガイド』または ClearQuest Web クライアントのヘルプを参照してください。

UNIX 上の ClearQuest の管理

UNIX 上にインストールした ClearQuest をユーザーが操作できるようにすることができます。ClearQuest UNIX のインストールを計画する場合は、次のような点に注意する必要があります。

- ClearQuest UNIX には、ClearQuest Designer、ClearQuest メンテナンス ツール、ClearQuest インポート ツール、ClearQuest エクスポート ツールは含まれていません。
- UNIX 環境内のスキーマとデータベースの設定、カスタマイズ、管理を行うには、ClearQuest Designer と ClearQuest メンテナンス ツールと共に ClearQuest Windows をインストールする必要があります。
- 外部ファイルとの間でデータのインポートとエクスポートを行うには、ClearQuest インポート ツールと ClearQuest エクスポート ツールと共に ClearQuest Windows をインストールする必要があります。

UNIX 上で ClearQuest を実行する方法の詳細については、『Rational ClearQuest 管理ガイド』を参照してください。

この章には、Rational ClearQuest の管理者、スキーマ デザイナを含むすべてのユーザー向けの情報が記載されています。この章では、ClearQuest Windows、ClearQuest UNIX、ClearQuest Web クライアントの使用法の基本概念について説明します。また、次の操作についても説明します。

- 変更依頼の登録
- 変更依頼の操作
- 変更依頼の追跡
- プロジェクト進捗情報の収集

ClearQuest 管理者は、**管理者のためのヒント**に記載された、組織のワークフローに合わせて ClearQuest をカスタマイズする方法についての推奨事項を参照してください。

変更管理プロセスの計画の詳細については、「第 2 章 変更管理プロセスの計画」を参照してください。管理タスクの詳細については、「第 3 章 ClearQuest の管理とカスタマイズ」を参照してください。

メモ: この章の例では、ClearQuest で提供される DefectTracking スキーマと SAMPL データベースを使用します。これは、ClearQuest の使用モデルのほんの一例です。その他のスキーマについては、17 ページの「ClearQuest のスキーマの選択」を参照してください。

ClearQuest Windows クライアントの使用法

Rational ClearQuest には、ユーザー データベースへのアクセスと変更依頼の操作に使用する Windows クライアントがあります。

ClearQuest Windows クライアントの使用を開始するには

- 1 [スタート] メニューをクリックし、[プログラム] をポイントします。次に、[Rational Software] をポイントし、[Rational ClearQuest] をクリックします。
- 2 ClearQuest Windows クライアントにログオンします。ログオンには、ClearQuest の事前に定義されているユーザー名 (admin) が使用できます。パスワードを入力する必要はありません。

- 3 [データベース] リストからデータベースを選択します。SAMPL データベースを選択し、変更依頼レコードが既に格納されて運用が開始されているユーザー データベースで実習します。

メモ: [データベース] リストが空の場合は、ClearQuest 管理者に連絡するか、次の管理者のためのヒントを参照してください。

ClearQuest Windows クライアントの詳細については、ClearQuest のヘルプを参照してください。

管理者のためのヒント: ログインすると、インストール時に自分のサイトに作成して設定したユーザー データベースの名前が、[データベース] リストに表示されます。ユーザー データベースの作成と設定の詳細については、Windows の場合は『Rational Software サーバー製品インストールレーション ガイド』、UNIX の場合は Rational ClearQuest のインストールレーション ガイドを参照してください。

インストール後に、ClearQuest Designer を使用してユーザー ログイン アカウントを設定し、ユーザー アクセス権限を定義します。ユーザー ログイン アカウントの設定方法の詳細については、『Rational ClearQuest 管理ガイド』のユーザー管理に関する情報を参照してください。

ClearQuest UNIX クライアントの使用方法

Rational ClearQuest には、UNIX コンピュータからほとんどの ClearQuest の操作に使用できる UNIX クライアントがあります。

ClearQuest UNIX クライアントの使用を開始するには

- 1 コマンドプロンプトで、次のように、ClearQuest ホーム環境変数 (\$CQ_HOME) を設定します。
`cquest-home-dir/cq_setup.sch`
- 2 UNIX クライアントを起動するには、「clearquest」と入力します。
- 3 [Schema Repository] ダイアログ ボックスで、スキーマを選択し、[OK] をクリックします。
- 4 ClearQuest UNIX クライアントにログオンします。ログオンには、ClearQuest の事前に定義されているユーザー名 (admin) が使用できます。パスワードを入力する必要はありません。
- 5 [Database] リストからデータベースを選択します。

メモ: [Database] リストが空の場合は、ClearQuest 管理者に連絡するか、次の管理者のためのヒントを参照してください。

SAMPL データベースを選択し、多数の変更依頼レコードが既に格納されて運用が開始されているユーザー データベースで実習します。

ClearQuest UNIX クライアントの詳細については、ClearQuest のヘルプを参照してください。

管理者のためのヒント: ログインすると、インストール時に自分のサイトに作成して設定したユーザー データベースの名前が、[Database] リストに表示されます。ユーザー データベースの作成と設定の詳細については、Windows の場合は『Rational Software サーバー製品インストールレーション ガイド』、UNIX の場合は Rational ClearQuest のインストールレーション ガイドを参照してください。

ClearQuest UNIX をインストールした場合は、ClearQuest Designer、ClearQuest メンテナンス ツールなどの、いくつかの管理ツールは使用できません。ClearQuest Windows をインストールした場合と ClearQuest UNIX をインストールした場合の相違点の詳細については、『Rational ClearQuest 管理ガイド』を参照してください。

ClearQuest Web クライアントの使用法

Rational ClearQuest には、Web ベースのクライアント インターフェイスが含まれています。ClearQuest Web クライアントと Web ブラウザを使用すると、次の操作を行うことができます。

- 変更依頼レコードの登録
- 変更依頼レコードの表示と変更
- 事前定義されたクエリーの実行
- 新規クエリーの作成と実行
- 新規レポートの作成と実行
- 事前定義されたグラフとレポートの表示

ClearQuest Web クライアントの使用を開始するには

- 1 ClearQuest 管理者から指定された ClearQuest Web の URL にアクセスします。
- 2 ClearQuest Web クライアントにログオンします。ログオンには、ClearQuest の事前に定義されているユーザー名 (admin) が使用できます。パスワードを入力する必要はありません。
- 3 複数のスキーマ リポジトリにアクセスできるように設定されている場合は、[スキーマ リポジトリ] リストからスキーマ リポジトリを選択します。
- 4 [データベース] リストからデータベースを選択するか、テキスト フィールドにデータベース名を入力します。

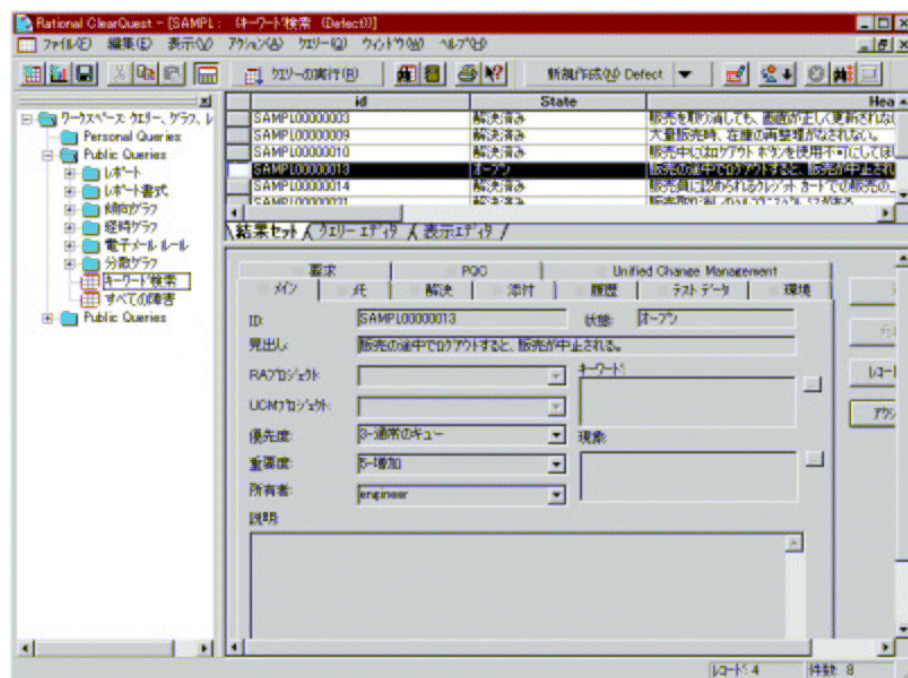
ClearQuest Web クライアントの詳細については、ClearQuest のヘルプを参照してください。

管理者のためのヒント: ClearQuest 管理者は、ClearQuest Web クライアントの設定とカスタマイズ、ユーザー アクセスの制御、ClearQuest Web フックのカスタマイズを行います。これらのタスクの詳細については、『Rational ClearQuest 管理ガイド』を参照してください。

ClearQuest クライアント インターフェイス

ClearQuest クライアント インターフェイスは、ワークスペース、クエリー ビルダー、レコード フォームの 3 つのインターフェイスで構成されています。ClearQuest Windows クライアントと ClearQuest UNIX クライアントでは、3 つのすべてのコンポーネントを同時に画面上で使用できます。Web クライアントでは、ワークスペースは常に表示され、クエリー ビルダーとレコード フォームは、ユーザーの選択に応じて表示されます。図 3 に、ClearQuest Windows と ClearQuest UNIX のクライアント インターフェイスとそのコンポーネントの例を示します。

図 3 ClearQuest クライアント インターフェイス



ワークスペース

ワークスペースは、3 つの ClearQuest クライアント インターフェイスの一番左側のペインに表示されます。ここには、使用可能なクエリー、グラフ、レポートが表示されます。

ワークスペースの [共用クエリー] フォルダには、ClearQuest に付属しているクエリー、グラフ、レポートが格納されています。ClearQuest 管理者が作成したクエリー、グラフ、レポートがある場合は、それらも入っています。Windows クライアントと UNIX クライアントでは、任意のクエリー、グラフ、レポートを [個人用クエリー] フォルダにドラッグし、自分用に変更できます。

クエリー ビルダー

クエリー ビルダーは、ClearQuest Windows と ClearQuest UNIX のクライアント インターフェイスの右上のペインに表示されます。ここには、クエリー結果が表示されます。ClearQuest Web インターフェイスでは、クエリー ビルダーは、クライアントの起動時に、ウィンドウの右半分に表示されます。レコードをクリックすると、レコードフォームにレコードのデータが表示されます。UNIX クライアントまたは Windows クライアントでは、[クエリー エディタ] タブを使用してクエリー フィルタの条件を変更したり、[表示エディタ] タブを使用してクエリー結果セットに表示される列を変更したりできます。Web クライアントでクエリーを変更するには、[操作] をクリックします。

レコード フォーム

Windows クライアントと UNIX クライアントでは、レコードフォームは、クエリー ビルダーの下に表示されます。ここには、指定したレコードのすべてのデータが表示されます。Web クライアントでは、レコード フォームは、クエリー ビルダーでレコードを選択したときに、ウィンドウの右側のペインに表示されます。

詳細については、ClearQuest のヘルプを参照してください。

Windows クライアントと UNIX クライアントでの変更依頼 レコードの操作

変更依頼レコードは、変更依頼レコードを登録し、事前定義されたステージ (状態) を遷移させることで操作します。各状態で、レコードの変更やほかの状態への遷移などのアクションを実行できます。変更依頼を登録した後に、レコードフォームの[アクション]をクリックすると、現在の状態のレコードに対して実行できるアクションが一覧表示されます。

ここでは、Windows クライアントまたは UNIX クライアントを使用する場合の、変更依頼レコードの一般的なワークフローについて説明します。ClearQuest Web クライアントを使用する場合の、変更依頼の操作方法の詳細については、ClearQuest のヘルプを参照してください。

変更依頼の登録

ClearQuest の使用は、まず変更依頼を登録することから始まります。これによって、ユーザーデータベースにレコードが作成され、ソフトウェアの開発とテストの過程でそのレコードをチームの全員が追跡できるようになります。

変更依頼を登録するには、[アクション] メニューの [新規] をクリックし、レコード タイプを選択します。使用できるレコード タイプは、使用するスキーマによって異なります。

障害登録フォーム

Defect レコードタイプは、多くの ClearQuest の実装で使用される変更依頼のタイプです。障害登録フォームを開いて障害を登録するには、ツールバーの[新規障害の作成]をクリックするか、[アクション]メニューの[新規]をクリックして、Defect レコードタイプを選択します。

障害登録フォームの各タブを使用すると、変更依頼の詳しい説明を指定できます。タブの中には、必須フィールドを含むものもあります。たとえば、[見出し]フィールドには、問題を記述する短い文が必要です。[重要度]フィールドでは、値を選択する必要があります。赤い四角の付いたタブは、必須のフィールドを含んでいます。必須フィールド自体には赤のラベルが付けられています。

使用したフィールドの値をデフォルトとしてそのつど保存すると、変更依頼を登録するたびに再入力する手間が省けます。保存するフィールドに入力し、[値]をクリックし、[デフォルトとして保存]をクリックします。新しい障害を作成する場合は、[値]をクリックし、[デフォルトの読み込み]をクリックして、障害登録フォームにデフォルト値を読み込むことができます。図 4 に、障害登録レコードフォームの例を示します。

図 4 障害登録フォーム

The image shows a screenshot of the 'Submit Defect' form in the ClearQuest application. The window title is 'Submit Defect SAMPL00000044'. The form has several tabs: 'Main', 'Add', 'Test Data', 'Environment', 'Requirements', and 'Unified Change Management'. The 'Main' tab is selected. The form contains the following fields: 'ID' (SAMPL00000044), 'Status' (Registered), 'RA Project' (dropdown), 'UCM Project' (dropdown), 'Priority' (dropdown), 'Owner' (dropdown), and 'Description' (text area). There are also buttons for 'OK', 'Cancel', and a 'Value' dropdown menu with options 'Load default value' and 'Save as default'.

メモ: Rational の TeamTest、Purify、PureCoverage、Quantify、Visual Test からは、ClearQuest に直接変更依頼を登録できます。また、ClearQuest Web や ClearQuest UNIX を使用しても、変更依頼の登録または変更を行ったり、電子メールで変更依頼を登録することができます。

管理者のためのヒント: ClearQuest 管理者の場合は、新規にレコードタイプを作成できます。たとえば、ハードウェアの障害、ソフトウェアの障害、機能拡張など、依頼の種類別にそれぞれのレコードタイプを作成できます。また、タブやフィールドを追加し、おのおのの動作を定義することで、レコードフォームをカスタマイズすることもできます。詳細については、『Rational ClearQuest 管理ガイド』または ClearQuest のヘルプを参照してください。

変更依頼の割り当て

登録した変更依頼は、Assign アクションを使用して、作業を行うエンジニアに変更依頼を割り当てることができます。Assign アクションは、障害レコードを Submitted 状態から Assigned 状態に遷移させる状態遷移です。レコードフォームの [状態] フィールドを参照すると、レコードの現在の状態が分かります。

レコードを割り当てるには

- 1 [アクション] メニューの [Assign] をクリックします。
- 2 レコード タブのすべての情報を入力し、[適用] をクリックします。

管理者のためのヒント: レコードが遷移できる状態や、各状態で実行可能なアクションなど、レコードの操作手順は、使用する ClearQuest のスキーマと実施したカスタマイズの内容によって変化します。変更管理プロセス内の状態の計画の詳細については、「第 2 章 変更管理プロセスの計画」を参照してください。スキーマのカスタマイズの詳細については、18 ページの「スキーマのカスタマイズ」または『Rational ClearQuest 管理ガイド』を参照してください。

変更依頼の変更

すべてのアクションによって変更依頼の状態が変化するわけではありません。[アクション] メニューの [Modify] をクリックすると、状態を変更せずに、変更依頼の一部の情報を変更できます。

変更依頼のオープンと解決

変更依頼を割り当てられたエンジニアは、[アクション] メニューの [Open] をクリックすることで、作業を開始します。この操作によって、レコードは オープン状態になり、問題の処理が行われていることがチームのほかのメンバーにも分かります。

作業を終了したら、[アクション] メニューの [Resolve] をクリックして、レコードを Resolved 状態に遷移します。

管理者のためのヒント: ClearQuest 管理者の場合は、特定のユーザー グループの ClearQuest アクションを制限できます。たとえば、変更依頼の解決はチームの全員に許可し、Verify アクションは品質管理グループにのみ制限するといったことができます。Rational ClearQuest のセキュリティの使用法の詳細については、『Rational ClearQuest 管理ガイド』を参照してください。

Windows クライアントと UNIX クライアントでの変更依頼レコードの追跡

ClearQuest では、クエリーを実行して、データベース内の特定の障害や変更依頼レコードを検索できます。ClearQuest のクエリーを使用すると、チームの全員が、プロセス内で遷移する変更依頼レコードを簡単に追跡できます。ここでは、Windows クライアントまたは UNIX クライアントを使用して、変更依頼レコードを追跡する方法について説明します。ClearQuest Web クライアントを使用して、変更依頼レコードを追跡する方法については、ヘルプを参照してください。

共用クエリーと個人用クエリー

ワークスペースには、[個人用クエリー] と [共用クエリー] の 2 つの主要なクエリー フォルダがあります。組み込みのスキーマを使用する場合は、ClearQuest の [共用クエリー] フォルダにすぐに使用できるクエリーが含まれています。これらのクエリーを使用すると、プロジェクトまたはコンポーネント、担当のエンジニア、重大性のレベルなどを基準にしてレコードを検索できます。ユーザーが作成するすべてのクエリー、グラフ、レポートは、常に [個人用クエリー] フォルダに格納されます。管理者から共用フォルダ管理者権限を与えられていない場合は、[個人用クエリー] フォルダにのみクエリーを保存できます。[共用クエリー] フォルダ内のクエリーを変更することはできますが、変更したクエリーを保存するときは、[個人用クエリー] フォルダに保存されます。

ワークスペースからのクエリーの実行

ワークスペースから ClearQuest クエリーを実行するには、クエリー名をダブルクリックします。

たとえば、ソフトウェアの障害を発見したときに、クエリーを実行して、その障害が既に登録されているものかどうかを調べることができます。ワークスペースで、[共用クエリー] をダブルクリックし、[All Defects] をダブルクリックして、データベース内のすべてのレコードを表示します。または、[共用クエリー] をダブルクリックし、[Keyword search] をダブルクリックして、[見出し] フィールドまたは [説明] フィールドに特定の単語を含むレコードを検索します。

クエリー ビルダーにクエリー基準に一致するレコードが表示されます。クエリー結果が表示されない場合は、クエリー ビルダーの下にある [結果セット] タブをクリックします。[クエリーエディタ] タブと [表示エディタ] タブをクリックし、クエリーの選択基準と表示方法を変更します。

新しい障害の登録中に、[クエリー] メニューの [最近登録したレコード] をクリックすると、ログオン以降に登録した障害のリストを参照できます。

クエリーの実行方法の詳細については、ClearQuest のヘルプを参照してください。

カスタム クエリーの作成

ClearQuest でカスタム クエリーを作成し、指定した基準に基づいてレコードを検索することができます。クエリーを表示するフィールドと、クエリー フィルタとして使用するフィールドと対応する値を決定します。

クエリーの作成方法の詳細については、ClearQuest のヘルプを参照してください。

Windows クライアント上でのクエリー ウィザードの使用法

クエリー ウィザードの指示に従って操作すると、カスタム クエリーを作成できます。クエリー ウィザードが有効になっていることを確認するには、[クエリー]メニューをクリックし、[クエリー ウィザードを使用]の横にチェックマークが表示されていることを確認します。チェックマークが表示されていない場合は、[クエリー]メニューの[クエリー ウィザードを使用]をクリックしてウィザードをアクティブにします。

クエリー ウィザードを起動するには、[クエリー]メニューの[新規クエリーの作成]をクリックします。クエリー ウィザードの指示に従って、次の操作を行います。

- 新規クエリーを作成するか、既存のクエリーを変更します。
- クエリーの対象のレコード タイプを選択します。
- クエリーの表示フィールドを選択します。
- クエリー フィルタのフィールドを選択し、フィルタの値を定義します。

クエリー ウィザードの操作が終了すると、クエリー結果が、クエリー ビルダーの[結果セット]タブに表示されます。新規クエリーを[個人用クエリー]フォルダに保存するには、[ファイル]メニューの[名前を付けて保存]をクリックするか、ツールバーの[クエリーの保存]をクリックします。

クエリー ウィザードの使用法については、クエリー ウィザードのダイアログ ボックスの[ヘルプ]をクリックしてください。

クエリー ウィザードを使用しないで、クエリーを作成することもできます。詳細については、ClearQuest のヘルプを参照してください。

管理者のためのヒント: ClearQuest 管理者の場合は、[共用クエリー]フォルダにクエリーを保存でき、この権限をほかのユーザーに割り当てることもできます。ユーザーの管理の詳細については、『Rational ClearQuest 管理ガイド』を参照してください。

クエリーの変更

クエリーを変更するには、ワークスペースでクエリーをダブルクリックし、[クエリー エディタ] タブと [表示エディタ] タブを使用して変更します。

クエリーのフィルタ基準を変更するには、[クエリー エディタ] タブを使用します。たとえば、[Submit Date] フィールドではなく、[Closed Date] フィールドを基準としてクエリーをフィルタするように、クエリーを変更できます。クエリー ビルダーでのクエリー結果の表示方法を設定するには、[表示エディタ] タブを使用します。各レコードについて表示するフィールドと、レコードのソート基準を選択できます。

新規クエリーを [個人用クエリー] フォルダに保存するには、[ファイル] メニューの [名前を付けて保存] をクリックするか、ツールバーの [クエリーの保存] をクリックします。

プロジェクト進捗情報の収集

ClearQuest には、実行可能な事前定義のグラフとレポートが用意されており、このグラフやレポートを使用すると、プロジェクトの状態を一目で参照できます。グラフやレポートを作成、表示するためのオプションは、使用するクライアントによって異なります。特定のクライアントのグラフとレポートの機能の詳細については、表 5 を参照してください。

表 5 ClearQuest クライアントのグラフとレポートの機能

クライアント	グラフ	レポート
Windows	表示と作成	表示と作成
UNIX	該当なし	作成 (テキスト形式のレポート)
Web	表示	表示と作成

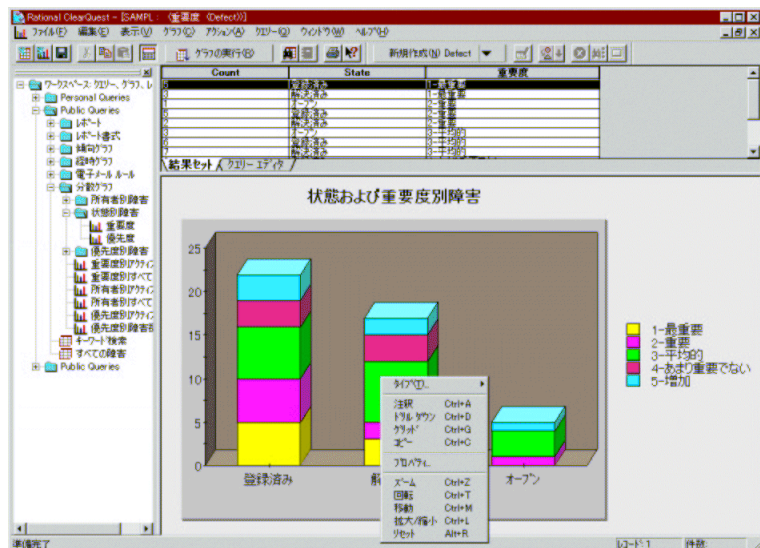
ClearQuest のグラフの使用法

ClearQuest のグラフは、レコードのデータを視覚的に表示します。ClearQuest の組み込みのスキーマリポジトリには、経時グラフ、分散グラフ、傾向グラフなど、多くの事前定義されたタイプのグラフが用意されています。分散グラフは、データの現在の状態を表し、傾向グラフと経時グラフは過去からの情報を表します。

たとえば、エンジニアごとに割り当てられている障害を表示する分散グラフを実行することで、チームのエンジニアに作業の負荷がどのように分散されているかを参照できます。また、状態や重大性に基づいて障害レコードをグラフ化し、参照することもできます。図 5 に、ClearQuest の分散グラフの例を示します。

ClearQuest のグラフの操作方法の詳細については、ClearQuest のヘルプを参照してください。

図 5 ClearQuest の分散グラフ



ClearQuest のグラフの作成

ClearQuest のグラフを新規に作成するには、[クエリー] メニューの [新規グラフの作成] をクリックします。

グラフ ウィザードを使用して、次の操作を行います。

- グラフ タイプを指定します。
- グラフのスタイルを選択します。
- フィールドを選択します。
- ラベルを定義します。
- 表示タイプを選択します。

詳細については、グラフ ウィザードの [ヘルプ] をクリックしてください。

ClearQuest のグラフの保存

作成または変更した ClearQuest のグラフは、ワークスペースの [個人用クエリー] フォルダに保存できます。グラフを保存するには、[ファイル] メニューの [保存] をクリックするか、[ファイル] メニューの [名前を付けて保存] をクリックします。

ClearQuest のグラフの実行

ClearQuest の既存のグラフを表示するには、ワークスペースでグラフをダブルクリックします。選択したグラフのタイプによっては、グラフに関連付けられたクエリーを指定するパラメータの入力が必要な場合があります。この場合は、必要なパラメータを指定し、[クエリーの実行]をクリックします。

ClearQuest のグラフの変更

次のいずれかの方法で、作業中のグラフの内容を変更できます。

- [編集] メニューの [プロパティ] をクリックして、データの表示方法を定義します。
- [クエリー エディタ] タブで、グラフに含まれるレコードをフィルタします。

グラフを変更して保存するには、そのグラフが [個人用クエリー] フォルダに置かれている必要があります。共用のグラフを [共用クエリー] フォルダから [個人用クエリー] フォルダにドラッグアンドドロップし、変更して保存します。

ClearQuest のレポート書式とレポートの使用法

ClearQuest のレポート書式とレポートを使用して、クエリーによって返される ClearQuest データの表示をフォーマットできます。最初に、表示されるフィールドなど、レポートのレイアウトを指定するレポート書式を作成します。次に、レポート書式をクエリーにリンクする実際のレポートを作成します。

ClearQuest の組み込みのスキーマには、事前定義されたレポート書式とレポートが用意されています。これらを表示するには、ワークスペースの [共用クエリー] フォルダの [レポート書式] または [レポート] をクリックします。

ClearQuest のレポートとレポート書式の操作方法の詳細については、ClearQuest のヘルプを参照してください。

レポート書式の作成

ClearQuest のレポートを作成するには、最初に ClearQuest のレポート書式を作成して、レポートのレイアウトを定義する必要があります。レポート書式を作成するには、Crystal Reports Professional Edition 8.5 を購入してインストールする必要があります。

管理者が既に作成したレポート書式を [共用クエリー] フォルダに格納している場合は、それらのレポート書式を使用して、新規レポートを作成できます。図 6 に障害の概要レポート書式に基づいたレポートの例を示します。

図 6 ClearQuest の障害の概要レポート

障害の概要			
SAMPLE00000001	02/14/2006にエラーが起きました。	優先度: 3-通常のキュー	影響度: 低
SAMPLE00000002	購入された商品が削除されると、販売が止しく計算されない。	優先度: 2-高度の注意が必要	影響度: 高
SAMPLE00000003	販売を修正しても、在庫が止しく更新されない。	優先度: 3-通常のキュー	影響度: 低
SAMPLE00000004	在庫がゼロ以下になるとエラーが起きます。	優先度: 3-通常のキュー	影響度: 低
SAMPLE00000005	列が揃っていない。	優先度: 2-高度の注意が必要	影響度: 高
SAMPLE00000006	項目の削除が正しく反映されない。	優先度: 2-高度の注意が必要	影響度: 高
SAMPLE00000007	重複の一時変数が検出されない。		

ClearQuest Windows と ClearQuest Web でのレポートの作成

ユーザーまたは管理者が Crystal Reports を使用して作成した後は、そのレポート書式を既存のクエリーまたはクエリー結果セットに適用することで、ClearQuest のレポートを生成できます。詳細については、ClearQuest のヘルプを参照してください。

ユーザーまたは管理者がレポート書式を作成できない場合、組み込みのレポート書式を使用しないときは、ClearQuest と Rational SoDA を統合することで、レポートを生成できます。Rational SoDA レポート生成ツールとレポートテンプレートの設定方法の詳細については、Rational SoDA のヘルプを参照してください。SoDA レポートの作成方法については、ClearQuest のヘルプを参照してください。

ClearQuest UNIX でのテキスト形式のレポートの作成

ClearQuest UNIX では、グラフィカルなレポートを作成したり表示したりすることはできませんが、クエリー結果セットの情報を選択して整列させることで、テキスト形式のレポートを作成できます。テキスト形式のレポートは、グラフィカルなレポートと同じように、印刷またはエクスポートすることができます。ただし、テキスト形式のレポートは保存できないため、ClearQuest を使用するたびに、再作成する必要があります。

ClearQuest UNIX でのテキスト形式のレポートの作成方法については、ClearQuest のヘルプを参照してください。

ClearQuest のレポートの保存

ClearQuest Windows で作成または変更した ClearQuest のレポートは、ワークスペースの [個人用クエリー] フォルダに保存できます。レポートを保存するには、[ファイル] メニューの [保存] をクリックするか、[ファイル] メニューの [名前を付けて保存] をクリックします。

ClearQuest Web では、レポートの作成後または変更時に、自動的にレポートが保存されます。

ClearQuest のレポートの実行

ClearQuest の既存のレポートを表示するには、ワークスペースでレポートをダブルクリックします。選択したレポートタイプによっては、グラフに関連付けられたクエリーを指定するパラメータの入力が必要な場合があります。この場合は、必要なパラメータを指定し、[クエリーの実行] をクリックします。

ClearQuest Windows でのレポートとレポート書式の変更

ClearQuest Windows クライアントを使用する場合は、ClearQuest のレポートとレポート書式の次のプロパティをいつでも変更できます。

- レポート名またはレポート書式名
- レポートのレイアウト
- レポート内に表示されるデータ

ClearQuest UNIX と ClearQuest Web では、レポートとレポート書式のプロパティを変更することはできません。

ClearQuest のグラフとレポートのエクスポート

ClearQuest を使用して、ClearQuest のグラフとレポートを、ClearQuest データベースの外部にあるファイルに保存したりエクスポートしたりすることができます。

ClearQuest Windows クライアントと ClearQuest Web クライアントでは、グラフをグラフィックファイルとして保存したりエクスポートしたりすることができます。その後で、そのグラフィックを電子メールでリモート ユーザーに送信したり、ほかのファイルにインポートしたりできます。

レポートまたはレポート書式をリモート ユーザーと共有する場合、または ClearQuest のレポートを別のアプリケーションで表示できるように変更する場合は、レポートまたはレポート書式を ClearQuest Windows クライアントからエクスポートできます。

ClearQuest データの印刷

ClearQuest クライアントを使用して、クエリー結果、個々の変更依頼レコード、グラフ、レポートを印刷することができます。

印刷オプションの詳細については、ClearQuest クライアントのヘルプを参照してください。

電子メールによる自動通知の受信

ClearQuest 管理者は、変更依頼が登録または変更された際にチームのさまざまなメンバーに電子メールを送信するように、ClearQuest を設定できます。電子メールによる自動通知を有効に活用するには、すべての ClearQuest ユーザーが電子メール オプションを設定しておく必要があります。ClearQuest アカウント用の電子メール オプションを表示したり変更したりするには、[表示] メニューの [電子メール オプション] をクリックします。

管理者のためのヒント: ClearQuest の Email_rule レコードタイプを使用すると、ClearQuest ユーザーに電子メールによる自動通知を送信する場合のルールを簡単に定義できます。

ClearQuest にはすぐに利用できるスキーマがいくつかあらかじめ用意されており、そのすべてに電子メール パッケージが付属していますが、この Email_rule レコードタイプは、そのパッケージに含まれています。また、ClearQuest ユーザーが電子メールでレコードを登録したり変更したりできるように、Rational E-Mail Reader を使用して電子メールを設定することもできます。

詳細については、ClearQuest Designer のヘルプまたは『Rational ClearQuest 管理ガイド』を参照してください。

索引

A

admin ユーザー ID 16
AnalystStudio スキーマ 17

B

Blank スキーマ 17

C

ClearCase のサポート 4
ClearQuest 2
 新しいバージョンへのアップグレード 20
 インストール xiii
 管理 15
 管理ツール 2
 クライアント ツール 2
ClearQuest Designer 2
 起動 16
 チュートリアル 15
ClearQuest MultiSite 4
 管理ツール 3
ClearQuest UNIX 2
 管理 22
 使用 24
ClearQuest Web 2
 管理 21
 使用 25
ClearQuest Windows 2
 使用 23
ClearQuest のインストール xiii
ClearQuest の管理 15
ClearQuest メンテナンス ツール 2
Common スキーマ 17
Crystal Reports のサポート 4

D

DB2 のサポート 4
DefectTracking スキーマ 17, 23
Designer、ClearQuest の起動 16
DevelopmentStudio スキーマ 17

E

E-Mail Reader 3
Email_rule レコードタイプ 37
Enterprise スキーマ 17

I

ID、ビルトイン ユーザー
 ClearQuest 23, 24, 25
 ClearQuest Designer 16

M

Microsoft
 Access のサポート 4
 Excel のサポート 4
 IIS Web サーバーのサポート 4
 Project のサポート 4
 Visual Source Safe のサポート 4
 Visual Studio 6 の統合 4
 VS.Net の統合 4
 Word のサポート 4

O

Opened 状態 29
Oracle のサポート 4

P

PureCoverage のサポート 4
Purify のサポート 4

Q

Quantify のサポート 4

R

Rational E-Mail Reader 3, 21
Resolved 状態 29

S

SAMPL データベース 23, 24
SQL Anywhere のサポート 4
SQL Server のサポート 4

T

TeamTest のサポート 4
TestStudio スキーマ 17

U

UnifiedChangeManagement スキーマ 17
UNIX、ClearQuest 2
 管理 22
 使用 24

V

VisualTest のサポート 4

W

Web、ClearQuest 2
 管理 21
 使用 25
Windows、ClearQuest 2
 使用 23

あ

アクション 10
 Assign 29
 Modify 29
 Open 29
 Resolve 29
 ユーザー アクセス制限 29
アクションへのユーザー アクセス制限 29

い

印刷 37
インポート ツール、ClearQuest 3, 20

え

エクスポート 36
エクスポート ツール、ClearQuest 3, 20
エディタ
 クエリー 32
 表示 32

か

カスタマ サポート xvii

き

経時グラフ 32
[共用クエリー] フォルダ 26, 30
キーワード検索クエリー 30

く

クエリー
 印刷 37
 カスタム クエリーの作成 31
 共用 30
 キーワード検索 30
 クエリー ウィザードによる作成 31
 最近登録したクエリー 30
 新規 32
 デフォルト 26
 変更 32
 ワークスペースからの実行 30
クエリー ウィザード 31
クエリー エディタ 32, 34
クエリー ビルダー 26
グラフ 32
 印刷 37
 エクスポート 36

経時 32
傾向 32
作成 33
実行 34
分散 32
変更 34
保存 33

け

傾向グラフ 32
結果セット 30
検索、キーワード 30

こ

[個人用クエリー] フォルダ 26, 30

さ

最近登録したクエリー 30

し

重要度
 データのグラフ化 32
 レコード フォームのフィールド 28
障害
 解決 29
障害の修正 29
状態 10
 Opened 29
 Resolved 29
 アクション 27
 変更 27
進捗情報、プロジェクト 32

す

- スキーマ 5
 - カスタマイズ 15, 18
 - 事前定義されたスキーマ 17
 - 事前定義されたスキーマのカスタマイズ 17
 - 設計 15
 - 選択 17
 - チェックアウト 16, 18
 - チェックイン 18
 - パッケージ 17
- スキーマのチェックアウト 16, 18
- スキーマのチェックイン 18
- スキーマ リポジトリ 5
 - アップグレード 20
 - 移動 20
 - 作成 19
 - 接続 19
 - 操作 19

せ

- 接続 7
 - 接続プロファイル 19

ち

- チュートリアル、ClearQuest Designer 15

て

- データ
 - 印刷 37
 - インポート用ツール 3, 20
 - エクスポート用ツール 3, 20
 - グラフ化 32

- データベース 6
 - SAMPL 23, 24
 - アップグレード 20
 - クエリー 30
 - スキーマによるアップグレード 18
 - データ インポート用ツール 3
 - データ エクスポート用ツール 3
 - メンテナンス ツール 2
 - ログイン時に選択 24
- データベース セット 7
- データベースのクエリー 30
- データベースのメンテナンス ツール 2
- データベースへのログイン 24
- 電子メール
 - 管理 21
 - 自動 21
- 電子メール、自動 37

と

- ドキュメント
 - ヘルプの説明 xvii

は

- パッケージ、スキーマ 17

ひ

- 必須フィールド 28
- 必要なフィールド 28
- 表示エディタ 32
- フィールド
 - 必須 28
 - 見出し 28

フォルダ、ワークスペース 26

プロセス モデル 10

分散グラフ 32

ヘルプ、アクセス xvii

変更依頼

「レコード」を参照

オープン 29

解決 29

登録 27

変更 29

割り当て 29

変更依頼の追跡 30

変更依頼の変更 29

変更管理 9

プロセス モデル 10

ワークフロー図 12

見出しフィールド 28

ユーザー ID

ClearQuest 23, 24, 25

ClearQuest Designer 16

ユーザー権限

アクション 29

ユーザー データベース 6

レコード

印刷 37

クエリーによるフィルタ 30

検索 30

最近 30

追跡 30

定義 27

フィルタ 34

フォーム 26

割り当て 29

レコードタイプ、Email_rule 37

レコードのフィルタ 30, 34

レポート 36

印刷 37

作成 35

実行 36

テキスト形式の作成 (UNIX) 35

変更 36

保存 36

レポート書式

作成 34

変更 36

ログイン

ClearQuest 23, 24, 25

ClearQuest Designer 16

ワークスペース 26

ワークフロー図 12

